

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26380508

研究課題名(和文) チーム医療が病院の組織変革に与える影響に関する理論・実証的研究

研究課題名(英文) the theoretical and practical e study on the effects that team medical care gives for the organizational change in the hospital

研究代表者

松田 陽一 (matsuda, yoichi)

岡山大学・社会文化科学研究科・教授

研究者番号：20346406

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、「チーム医療が病院の組織変革に与える影響に関する理論・実証的研究」というテーマで行ったものである。文献渉猟・アンケート(2回)・インタビュー(22病院)・観察調査(1病院3回)を通じて主に、チーム医療が病院の組織変革に与えている様相・実態を明らかにすることができた。これらについて報告書作成、雑誌論文掲載、公開の研究会開催を通じて公表し、さらに成果の一部を国内の学会で報告し、台湾の経営大学院で講義・報告している。

研究成果の概要(英文)：We made this study on this theme.(1)We were able to clarify an aspect, the actual situation that team medical care gave the organization change of the hospital through reading extensively(an associated documents, article, business book, a journalism article etc.),and so, we able to compare positioning, the point at issue, the connotation of this study, (2)a questionnaire survey research (twice), an interview research(22 hospitals), (3)an observation investigation (three times of 1 hospital) mainly. And we performed "team medical care management meeting for the study - case study report and a discussion" in Okayama University Tsushima campus on September 24, 2016. (4)We announce it through making reports(4), a magazine article publication, management holding about these, and(5)we discussed in institute of business and management national caiao tung university(Taiwan, 2014 through 2016),reported chyushikoku shoukei society(中四国商経学会・2015, 2016) .

研究分野：経営学

キーワード：組織変革 チーム医療 抵抗 マネジメント

1. 研究開始当初の背景

本研究は、著者の従来からのテーマである組織変革について、企業中心であった調査対象を病院に拡大したものである。その背景には、本学を含めた大学の大学院の授業やゼミで医療関係者から「医療現場は高度専門職の集団」、よって「企業マネジメントとは親和性が低く、特別である」等々の発言が、よく見聞きされる場面が多々あったことによる。換言すれば、組織成果を向上させるために、職場従業員の意識や行動の変革は必須であり、そのマネジメントは、どの職場においても共通ではないか、という疑問・関心から本研究は、その端を発している。そこでマネジメント施策（活動）として着目したのが、チーム医療である。具体的には、多くの病院では、政府の方針（とくに医療費の削減）により医師個人を頂点としたマネジメントには限界があることを理解している。また硬直化し、旧態依然とした職場の改善を考慮するも、そのマネジメントには着手できていない現実がある。そこにチーム医療である。中には、チーム医療を病院の組織変革におけるマネジメントツールとして活用している病院も少数ではあるが判明している。それらの活動やその理論的枠組みを解明して社会に提示できれば、組織変革に悩んでいる多くの病院のそれが円滑に進むのではないかと、これが第2の関心であり、本研究の推進力である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、今日、多くの病院において導入・活用が盛んであるチーム医療に着目し、それが病院の組織変革に与える影響について、文献・資料の渉猟調査、および定量・定性的調査を実施し、それらに基づいて理論・実証的に明らかにすることである。

ここで、組織変革とは、経営学の組織行動論における「組織成果の向上を目的として、従業員の意識・行動を計画・意図的に変革さ

せる行動、あるいはそこに見出される組織現象」である。

上述目的の具体的な内容は、チーム医療を導入・活用している病院における(1)チーム医療の実態、(2)チーム医療の影響による組織変革の様相と成果を明らかにすることである。そして、第2の目的は、多くの病院が直面し、苦慮している組織変革の推進について、マネジメントの実践的に有効な提言をすることである。

3. 研究の方法

本研究は、理論・実証的な研究を意図している。また、研究の方法は定量的、および定性的方法を併用する方法論的複眼によっている。本研究の課題を達成するために、複数の調査を行っている。具体的には文献・論文・記事・資料の渉猟調査による理論研究的な部分、および測定次元・尺度・具体的な質問測定項目の開発に基づく質問票郵送アンケート調査（定量）、インタビュー調査（定性）、および観察調査（定量・定性。録画、参加観察）による実証研究的な部分からなる。

ここで、研究期間内において、渉猟調査では学際的（主に社会心理学、経営学、社会学）な文献・論文の渉猟調査を行い、既存議論について、マクロ・ミクロ組織論、社会心理学、コンサルタント的議論の視点から整理した。他の調査では、チーム医療に関して導入・活用の実態、それが与える影響と生じた変化、推進の阻害要因、高成果チームの特徴に関する具体的なデータを、アンケート調査（2回）、インタビュー調査（22病院）観察調査（香川県S病院について3回）を通じて取得した。

また、具体的な研究・調査の流れはA：実態の把握（渉猟） B：アンケート・インタビュー・観察調査に関する質問測定項目の設計 C：前B調査の実施 D：前Cの結果分析、という流れであった。これらアンケー

ト・インタビュー・観察調査の対象は、病院、チーム、および病院職員の3者である。具体的には、アンケート調査が「病院（人事担当者）、チーム（リーダーとメンバー）、病院職員」、インタビュー調査が「病院（人事担当者）、チーム（リーダー、メンバー）、病院職員」、および観察調査が「チーム」である。

これらから収集したデータを基に 広範な傾向・実態の様相、および 濃密な特定病院のチーム医療のマネジメント事例を提示することが可能になる。

4. 研究成果

(1)学際的（主に医療マネジメント、経営学、社会学、社会心理学等）な渉猟調査を行い、チーム医療および組織変革に関する既存議論について、マクロ・ミクロ組織論、社会心理学、コンサルタント的議論の視点から整理できた。とくにチームのマネジメントについて、グループダイナミックスに基点をおいた経営学の従来知見をさらに獲得することができた。

(2)病院におけるチーム医療の実態について、組織変革に与える影響という視点から明らかにすることができた。これは、2回のアンケート調査と22病院へのインタビュー調査による。また、とくにその有効性を理解し、チーム医療を病院の組織変革に積極的に活用している病院の観察調査によって、そのインテンシブな活動内容を明らかにすることができた。

(3)上述(1)(2)に基づいて、関係者との共有を図るために、研究会を開催することができた（岡山大で開催。医師、看護師、事務職員等の40人超の参加が、岡山・広島・愛媛・香川・奈良・兵庫県の病院からあった）。報告（3名）と討議（4名パネラーと参加者）に基づいて活発な議論が展開され、従来への内政と新たな気づきを共有できた。

(4)以上の成果を報告書（4：下(7)~(10)）、雑誌論文（6：下(1)~(6)）、学会報告（2：下(11)~(12)）することができた。また、3年間、国立台湾交通大学経営管理学院（曾芳代助教授）の研究会・授業において、学部生・大学院生・社会人院生を対象にして講義・討議している。

5. 主な発表論文等 〔雑誌論文〕(計7件)

(1) 松田陽一・川上佐智子「チーム医療が組織変革に与える影響に関するアンケート調査報告・続」、『岡山大学経済学会雑誌』、第48巻、第3号、77-96頁、査読無、2017年3月。

(2) 松田陽一「チーム医療の活用マネジメントに関するインタビュー調査の報告(後)」、『岡山大学経済学会雑誌』、第48巻、第1号、79-110頁、査読無、2016年7月。

(3) 松田陽一「チーム医療の活用マネジメントに関するインタビュー調査の報告(前)」、『岡山大学経済学会雑誌』、第47巻、第2号、227-254頁、査読無、2016年2月。

(4) 松田陽一・川上佐智子「チーム医療が組織変革に与える影響に関するアンケート調査報告」、『岡山大学経済学会雑誌』、第47巻、第1号、45-69頁、査読無、2015年7月。

(5) 松田陽一「組織変革における抵抗に関するインタビュー調査の報告(2)」、『岡山大学経済学会雑誌』、第46巻、第1号、81-122頁、査読無、2014年7月。

(6) 松田陽一「企業の組織変革行動における抵抗に関するアンケート調査の報告」、『岡山大学経済学会雑誌』、第46巻、第2号、61-75頁、査読無、2014年12月。

1) 前回科研費との関連で、「松田陽一「組織変革における抵抗に関するインタビュー調査の報告(3)」、『岡山大学経済学会雑誌』、第46巻、第3号、27-60頁、査読無、2015年3月。

2) 報告書

(7)松田陽一『チーム医療マネジメント研究会
～事例報告とディスカッション～』未
刊,2016年12月14日。

(8)松田陽一・川上佐智子『チーム医療が組織
変革に与える影響に関するアンケート調査
報告書・続き(集計結果)』2016年11月30
日,未刊。

(9)松田陽一・川上佐智子『チーム医療が組織
変革に与える影響に関するアンケート調査
報告書(集計結果)』2014年11月11日,未刊。

(10)松田陽一『チーム医療マネジメント研究会
～事例報告とディスカッション～』未
刊,2016年12月14日。

〔学会発表〕(計2件)

(11)松田陽一・川上佐智子「組織変革の抵
抗に関する研究」中四国商経学会,2015年12
月12日(於:高松大学)

(12)松田陽一・川上佐智子「組織変革の抵
抗における類型化の議論」中四国商経学
会,2015年12月3日(於:広島大学)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

〔その他〕

6. 研究組織

研究代表者:松田陽一(岡山大学大学院社会
文化科学研究科 教授)

研究者番号:20346406

研究協力者:川上佐智子
(KAWAKAMI,Sachiko)